

芝生の専門家「ひとことアドバイス」

都内の公立小中学校等から様々な相談を受けて、アドバイスや講習会を行っている芝生の専門家。芝生の維持管理についてお話を伺いました。

芝生の管理で重要なことは？

芝生の管理で重要なことは時期をずらさないことです。「適切な時期に適切な管理作業をする」ということですね。気候に左右される部分が多いのですが、時期によってできることとできないことが出てきます。例えば、春から夏に掛けて多くの学校が補植を行います。ポット苗の場合、梅雨明け前に植え付けるとすると、逆算して5月中旬にポット苗を作っておくことが理想です。それが6月以降になると、不利な要素が増えてきます。そのようなスケジュール感を持つことが重要です。

今の時期にやっておくべきことは？

12月から2月にかけては、一番芝生に手の掛からない時期ですから、これまでのシーズンを振り返っての総括と来年の行事や管理作業の計画をするチャンスです。来年度にやりたいこと、やらなければならないことを、芝生管理のオフシーズンに計画することで、適切な時期を逃さず作業できるようになります。この時期に相談をしてもらえれば、次のシーズンにいつ何をやれば良いかということが計画でき、スムーズな動きができます。

芝生の管理そのものはそれほど難しいことではないので、皆さんが無理なく活動できるような計画を立ててください。

株式会社 緑の風景計画
専務取締役 植栽技術部長

よしか としや
吉岡 俊哉 さん



あっぱれ!
親方・匠

今回お訪ねしたのは、葛飾区立中之台小学校の佐々木さんと赤松さん。平成28年度にそろって親方と匠に認証されたお二人に、芝生についての想いを語っていただきました。

中之台小学校で校庭の芝生化が計画されたのは、6年ほど前。その頃学校は児童数も少なく統廃合の危機にあったそうです。当時PTA会長だった赤松さんは、この事態を打開するための一つとして校庭の芝生化を学校や区に要望します。要望を受けた学校は、地域応援団に対して芝生の維持管理のために協力してほしいという要請を行います。その地域応援団の団長が佐々木さんです。以来、計画段階を含めずっと二人三脚で中之台小学校の芝生を見守ってきました。芝生化が完了した後は、グリーンリーダーの赤松さんが絶えず校庭の芝生に気を配り、佐々木さんが地域との連携を密に保つという役割分担をされています。「周りの皆さんが協力的で、地域のつながりを大切にしてくれています。」と語ってくださいました。

「中之台小学校の特徴は、芝生を休ませない。何があっても、子供たちに使ってもらおうということ。その代わりに、補修は僕たち大人が責任を持って行う。ここの芝生に沿った手入れの仕方があるんですよ、それを4年くらいですが、自分たちで試行錯誤しながらやってきています。」と赤松さん。

校庭が芝生化されて4年、いまでは区の抽選校となるほど児童数も増えた中之台小学校。ここまで続けてこられた理由をお聞きすると、「愛着ですね!」という言葉が返ってきました。「子供たちが芝生の上で元気にスポーツをしたり遊んだりしているのを見ると、傷んだり穴があいたりしていたらもっと綺麗にしてあげたいなという気持ちになるんですよ。そういう気持ちの積み重ねが今日まで続いてきた理由でしょうね。みんな子供が好きなんですよ。」

そうおっしゃるお二人は、今日も地域の方々や子供たちと一緒に、芝生の補植に汗を流していらっしゃいました。



写真左：親方
葛飾区立中之台小学校地域コーディネーター
佐々木修二郎さん
写真右：匠
葛飾区立中之台小学校グリーンリーダー
赤松史貴さん



校庭芝生の親方・匠とは？

東京都教育委員会は、校庭芝生の維持管理に継続的に取り組み、多大な貢献をされた方で、体制の構築や取りまとめに尽力された方を「親方」、技術的な指導に尽力された方を「匠」として認証しています。